

一、経済戦線統一の必要を今日程強く感じ居る時はない、前述の如く国内的に國際的に危機に立てる資本主義の必死的努力が、或はトラスト或はカルテル、シンデケート等の結成となつて急激の歩調をとつて長はれつ、ある時、労働階級の陣營が数個に分割してゐる事は苦み追まなく不合理千万である。

日本の労働運動は今日尚然るが如く、過去のそれは組織過程の混乱期であつたとも云へるのである。従つてそれ自体の確固たる指導精神の樹立の暇を與へられなかつた、然し其の裏で、福本イズムを迎へ、一方山川イズムを指し、以て二個の方向轉換論により決定的混迷に没入するに至つた。

政治闘争に走るものは本来的な經濟闘争を忘れ、經濟戦線を守る者は政治闘争に理解を持たず爲に分裂に次々に分裂を見るに至つたのであつた。

今日於ける対立も多かれ少なかれ各組合が此の傾向を受爾いで居るが故である故に今日吾々が爲すべき任務は組合指導精神の整理にある、先づその前提として指導力の統一を計らねばならぬ。

指導力とは各組合に於てそれを現実に指導して行く実力である。それは組合員大衆の意志の結合を代表して之を現段階の正しき認識の上に振りなす指導と訓練をなし得るものであり、而も組合員大衆には批判の自由を與へその信賴とその統制力との両様の滋養なるを言ふものであつて、大衆の名を利用して常に分裂の苦幹

行動を爲すものを断固として排撃する。

吾が總聯合は日本労働倶楽部に加盟せしむ此の指導力の統一が精神なる指導精神を生み以て眞に日本の現段階に即した戦線統一を行はんとするものであつて、各等の細部に主張する労働組合主義を活用せんと欲するものである。

二、今や日本ブルジョアジーは民衆に対してデモンストラシーを與へ得ない。否、かゞき懲罰を持たない、従つて労働運動に対して極めて反動的政策を行ふであらう。然し尚その反動政策をぶち破つて血みどろに戦ひ取らねばならぬ幾多の要求を持つて居る。

自主的労働組合法、最低賃銀法、労働母子扶助法、失業保険法、労働者養老年金法等の獲得、健康保健法、工場法、労働者災害扶助法等の改正である。

今日此の低位な組織率以外に持たぬ日本労働運動に於て先づ考ふべきは未組織大衆の獲得である。多くの極めて意識水準の低き大衆を獲得する爲に吾等は上述のものを獲得して彼等に與へねばならぬ。それは一には大衆行動の強さを示標すると共に、一には大衆の生活悪化を最低限度に喰ひ止めんとする運動である。

「食ふに困れば大衆は左翼化する」と或者は云ふ、それは認識の誤りである、食へない所には自然発生的な反抗はあり得ない、眞に組織的なガンナリした闘争は夢想出来るものではない。